



人道
W=1.0m
最急勾配i=20%



人道
W=1.0~2.0m
最急勾配i=45%

孤立した高浜地区は、救急搬送が不可能であった。
震災当日は、急患の方を背負って山道を歩き
河南地区へ搬送している。

(仮)胡瓜沢線
L=1,500m W=5.0m
津波の浸水に対する孤立集落
の解消を目的とした道路整備
宮古市東日本大震災地区復興
まちづくり計画 (H24.3) にて計画

三陸国道事務所・国道啓開作業
3/15完了
藤の川・高浜地区 4日間の孤立

高浜住民インタビュー 広報みやこ2011.12.1より

Interview

高浜小学校児童の登下校時の安全確保をする支援隊として活動していた城内さん。下校の時間に合わせて学校にいたところで地震が起きた。

「これまでに感じたことのない長く大きな揺れ。すぐに津波のことが頭をよぎった。このまま児童らを下校させては危険だと判断し学校にとどめた。その後、国道沿いを避け山際を伝い自宅まで戻り家族の無事を確認。それから5分も経たないうちに波は防潮堤を越えた。高浜自治会は平成9年、市内でも早い段階で自主防災組織を立ち上げた。しかし高齢化が進むなど実質的には活動に参加する人は少なく、十分に機能できる体制ではなかった。高浜地区の住宅地には高台に避難場所はあるが、避難所がない。さらに、がれきや浸水により避難場所に行きたくても行けない状況だった。救援物資が届くまでの間、数日は自分たちの地区は自分たちで守らなければならないことが浮き彫りになった。そのためにも避難訓練、そして何より地域の結びつきを大切にしたい」

城内 義男さん
(高浜 丁目)

孤立した高浜地区には避難所がない！
(仮)胡瓜沢線・(仮)河南藤の川線 計画平面図